

Sakai Plaza of Rikyū and Akiko

さかい利晶の杜

学芸だより 第11号

初公開資料でたどる晶子と寛が見たパリ



表紙に使われた写真のオリジナル 個人蔵



雑誌『レ・ザナル』表紙 個人蔵

企画展特集

パリよりー与謝野晶子と寛の渡欧体験ー
会期：令和七年(二〇二五)七月二十六日(土)～九月七日(日)

雑誌『レ・ザナル』とその写真

今から百年以上前に、フランスの政治と文学の雑誌『レ・ザナル』(LES ANNALES)の表紙を、日本の女性詩人が飾ったことはほとんど知られていません。その女性詩人とは、三十四歳の与謝野晶子でした。

晶子は、一九二二年五月五日に日本を出発し、前年に渡欧した夫の寛を追ってパリへ向かいます。

二人はパリを拠点に、ヨーロッパを旅してさまざまな異文化に触れます。なかでも、彫刻家のロダンをはじめ、著名な芸術家たちと直接面会する貴重な体験は晶子と寛のその後の人生を大きく変えました。

パリでは当時ジャポニスムが流行しており、晶子は有名な日本の女性詩人として雑誌の表紙を飾るだけでなく、「仏蘭西に於ける第一印象」と題した文章を寄せています。同誌では、記者による晶子の紹介を含めて、全五ページにもわたる記事が掲載されています。晶子にとって、雑誌『レ・ザナル』など複数のメディアから取材される経験が、日本での本格的な評論活動を始めるきっかけとなりました。

本展では、雑誌に使われた晶子の肖像写真のオリジナルを、当時の雑誌とあわせて初公開いたします。表紙の晶子は強い女性の印象ですが、オリジナルは柔らかな表情をした晶子の全身写真であったことがわかります。このほかに寛と一緒に撮影された写真なども展示します。

(与謝野晶子記念館学芸員 森下明穂)

神野藤昭夫(かんのとうあきお)



企画展
関連対談

神野藤昭夫 × 菊地英之



菊地英之(きくちえいじ)

企画展「パリよりー与謝野晶子と寛の渡欧体験ー」を記念し、跡見学園女子大学名誉教授の神野藤昭夫氏と、日仏文化交流を研究するパリ在住の菊地英之氏をお迎えし、対談を行いました。(敬称略)

● 今回の企画展のねらい

神野藤 今回の企画展は、パリの寛・晶子ふたりの体験がどんなもので、晶子の活動が世界に向かっただけのように発信されることになったかに力がおかれています。なかでも、大きな目玉である寛の「渡欧日記」が初公開されるのが貴重です。

近年、パリからも新しい映像資料や研究が出て来ています。今日は、それを語るにふさわしい菊地英之さんをお迎えしています。菊地さんは、欧州での柔道の普及活動のかたわら、日仏文化交流資料を発掘、収集、研究しておられ、じつは、晶子・寛の大きな支援者である森鷗外の子孫でもある方です。

● パリで見つけた晶子の写真

神野藤 近年、菊地さんが発見された晶子写真は、どんなふうに見つけられたのですか。

菊地 私が見つけた写真は全部で九枚。パリの古書フェアで、フランスの雑誌「ザナル」の表紙を飾る和服を着た日本女性と「AKICO」という表記が眼に止まり、中をみると、雑誌に使われたオリジナルらしい写真が入っていたというわけです。

● パリでの下宿はどんなところ

神野藤 その晶子が、寛とパリ生活の拠点にしたビクトル・マセ通り二一番地ビスの下宿。あそこは、どんなところなのでしょう。

菊地 ビガールという、いわゆる夜の繁華街として有名なあたりで、その中心から徒歩数分のところ。ムーラン・ルージュという風車で有名なキャバレーからも遠くありません。また下宿から、五分とかならないところに、タバランという永井荷風の『ふらんす物語』の中に描かれたキャバレーがありました。

神野藤 晶子は、五月十九日にパリ北駅に到着するわけですが、寛は、二十二日には、洋服や帽子を買って、その夜、晶子を、タバランに連れて行ってます。

● パリの第一印象とその反響

神野藤 下宿先には、夜の街ではたらくさまざまな女性たちが住んでいたようです。晶子は、そういう女性たちの生活を身近に見たり聞いたりするわけで、そこでの観察が下地になって、「巴里に於ける第一印象(『巴里より』)という文章が書かれる。晶子が、フランスのジャーナリズムに取り上げられるのは、どんないきさつからでしょうか。

菊地 その原型となるのが、レ・ザナル誌に掲載された「仏蘭西に於ける第一印象」ですが、その仲介をしたのが、レオン・ファローというジャーナリストです。

これより早く、別の雑誌ミロワール誌には、既に晶子と寛の紹介文が写真付きで出ています。

神野藤 ファローという人は、晶子を世に紹介する重要な役割を果たした存在のようで、晶子の丁寧な紹介文を書いていますね。

菊地 ファローは、かねて日仏協会の会員でもあり、日本人画家や大使館員とも親しかった。それで、与謝野晶子という当代一の女流歌人が来るという情報を事前にキャッチして、取材をしていたのではないのでしょうか。

神野藤 菊地さんが見つけた写真は、どこで撮影したものでしょう。

菊地 三枚はレ・ザナル誌用のもので、スタジオのようなところで撮影したものでしょう。

残りの六枚はビクトル・マセの下宿先かと思いましたが、実際に部屋を見てみると、どうも一致しない。ところが、寛の日記に、モンマルトルのファロー宅でミロワール用に撮影したとあり、驚きました。

神野藤 晶子記念館には、晶子の文章を読んだ婦人参政権を推進する仏蘭西女権拡張会という団体から送られて来た手紙が寄託されています。

菊地 あれは、晶子が直感的につかんで批評したフランス女性観は正確でない。希望があれば、私たちの活動を紹介するので訪ねて欲しい、という内容で、『巴里より』で寛が紹介しているのが、この手紙です。



与謝野寛の渡欧日記



渡欧日記表紙

●寛の渡欧日記からわかること

神野藤 寛の渡欧日記については、どんな感想をお持ちですか。

菊地 いつ誰とどこで会ったかなど、未知の情報が入らぬままに出てくる貴重な資料だと思います。

神野藤 当時の文化の温床でもあるキャバレーなどにもしきりに出かけていますね。

菊地 今でもモンマルトルに残るラパン・アジルにも行って、名物親父と言葉を交わしています。現在のラパン・アジルは、シャンソンバーですが、当時は詩人が詩の朗読をするなど、文化的なイベントをやっていたようで、寛には、フランス文化の一端に触れるという側面がたいせつだったでしょう。

神野藤 日記には、名物親父がその時に書きつけたサインも貼り込んであったまなましいですね。だから、詩でも音楽でも絵画でも、ある種の芸術の温床という役割をキャバレーが果たしていたらしい。一世を風靡したシャノアールは、当時は閉じていたようですが、そういう一種の文化芸術が生み出される、その現場みたいなものという感覚をもって、多くの留学生(芸術家)たちは足を運んでいたのではないのでしょうか。

菊地 どうしても晶子に光が当たりがちですが、寛が先に渡欧して精力的に展覧会に行ったり、当時流行していた未来派の詩など、新しいものにふれようと試みたり、文学者として再生しよ

う、編集者として新しい雑誌を編集してみようという志が見え隠れしています。フランスの雑誌をメモしたり切り抜いたものが残っています。吸収できるものは吸収し、後日の再出版に備えていたのではないのでしょうか。

寛が彫刻家のロダンや文学者のレニエ、ヴェルハールなどにも積極的に会いに行っているのは、自分を高め、帰国後、芸術の紹介に努めるという気概があったように思います。寛の活動にはもっと光を当ててもいいのではないのでしょうか。

神野藤 まったく同感です。寛の意欲と導き、晶子に大きな影響を与えることになるわけですね。

今回の企画展は、多くの映像とともに、多くの芸術家たちの西欧体験の研究にも資する魅力的な内容となること期待されます。(終)

《令和六年八月六日/さかい利晶の杜講座室にて/与謝野晶子記念館学芸員森下記》

※『LES・ANNALES』のカタカナ表記「レザナル」/『レ・ザナル』については対談者の意向により現在の発音に近い形で表記しています。

*二氏には、企画展開催中にも対談をしていただきます。

初公開資料でたどる

パリより

From Paris

— 与謝野晶子と寛の渡欧体験 —

Atsuko and Himiko YOSANO's Expatriation of Europe

7月26日(土) - 9月7日(日)

【企画展】パリより—与謝野晶子と寛の渡欧体験—
 【会期】令和七年(二〇二五) 七月二十六日(土)~九月七日(日)
 【休館日】毎月第三火曜日
 【会場】さかい利晶の杜 企画展示室
 【主催】堺市
 【協力】与謝野晶子倶楽部

さかい利晶の杜
 大塚・東区立総合文化センター
 〒595-8501 大阪府東区大塚1-1-1
 電話:06-6644-1111
 受付時間:10:00~17:00(土曜・日曜・祭日を除く)
 観覧料:大人1,000円(小学生500円、中学生800円、高校生1,000円)
 観覧券:大人1,000円(小学生500円、中学生800円、高校生1,000円)
 観覧券は、企画展示室にて販売します。

- 記念対談
 「与謝野晶子と寛が歩いたパリ」
- 【日時】7月27日(日) 午後2時~3時30分
 【会場】さかい利晶の杜 講座室
 【定員】40名(先着順)
 【料金】300円(展示観覧含む)
 ※要申込、詳しくはさかい利晶の杜HPをご覧ください。
- 学芸員による展示解説
- 【日時】8月9日(土)、8月31日(日)
 各日午後1時30分~(30分程度)
 【会場】さかい利晶の杜 企画展示室
 【参加費】無料(展示観覧券が必要です)
- ワークショップ
- 「ミニ百首屏風をつくってみよう」
- 【日時】8月17日(日)
 午前10時30分~11時30分 / 午後2時~3時
 【会場】さかい利晶の杜 講座室
 【定員】各回15名
 【参加費】無料
 ※要申込、詳しくはさかい利晶の杜HPをご覧ください。

さかい百景 #04

堺ゆかりの歴史や文化、芸術にまつわるっておきのスポットを紹介しています。

南宗寺天慶院由緒利休供養塔 (堺区南旅籠町東三丁)

南宗寺は、堺区南旅籠町にある臨濟宗・大徳寺派の寺院です。もとは、京都・大徳寺の住職であった古岳宗巨(こかくそうこう、一四六五〜一五四八)が堺の一小院を「南宗庵」と改称したのが始まりと言われています。弘治三年(一五五七)、三好長慶(一五二二〜一五六四)が父・元長の菩提を弔うために南宗庵を改築し、大林宗套(一四八〇〜一五六八)を開山として「南宗寺」が創建されました。利休は大林宗套と南宗寺二世・笑嶺宗訢(一四九〇〜一五六八)に参拝しています。

現在、南宗寺の境内には利休とその一門を供養するために建てられた塔が残されています。中央に「抛笠齋墓前天慶院」と刻された利休の供養塔があり、その後ろと左右を取り囲むように、三千家の供養塔が並んでいます。



南宗寺の天慶院由緒利休供養塔
江戸時代・元禄期(1688~1704)



拓本「抛笠齋墓前天慶院」



千利休茶の湯館コーナー展示の様子

ここに刻された「抛笠齋」は利休の号です。「抛」は「なげうつ／＼する」の意味を持つ漢字です。「笠」は水中に指す魚を捕る竹製の漁具のことを指します。「笠」という魚を捕る＝利益を得るための道具を「なげうつ」とは、目の利益ではなく、精神的な充足を求めることを意味しているのかもしれない。

この千家一門の供養塔は、もともと南宗寺の塔頭(寺院のなかにある個別の坊)の一つである海眼庵(享保年間に天慶院と改称)にあったものです。元禄一〇年(一六九七)、裏千家第五代・常叟室(一六七三〜一七〇四)の弟子であった高木重三郎という人物の喜捨によって建てられました。昭和三〇年(一九五五)の都市計画に伴い、千家一門の供養塔は南宗寺本坊に移設され、現在は一般に公開されています(要拝観料)。

この供養塔ですが、野外に設置されて三百年以上が経過しています。かなりの年月が経っているため、刻された字も見づらくなっていました。二〇二四年六月、特別にご許可をいただき、利休供養塔の拓本を採らせていただきました。この時採った拓本は、令和六年(二〇二四)一月二〇日(水)から令和七年(二〇二五)三月一七日(月)まで、千利休茶の湯館のコーナー展示で展示し、堺で行われた利休顕彰の一例としてご紹介しました。

この供養塔が作られたのは、江戸時代。元禄期(一六八八〜一七〇四)あたりです。元禄三年(一六九〇)には、千利休(一五三二〜一五九一)の百年忌が行われました。現代の私たちが知らずれば、利休は四百年以上前に生きた人物であり、かなり昔の人物という感が否めません。しかし元禄の人々からすれば、ほんの百年前まで生きていた「茶の湯の偉人」と感じられたでしょう。

平和な江戸時代において、茶の湯は庶民にも広がっていきます。茶の湯に関わる人たちの増加は、利休を顕彰しようという動きに繋がっていきました。利休百年忌の年には、福岡藩(現在の福岡県)の家老であった立花実山(一六五五〜一七〇八)が、利休の秘伝書とされる『南方録』を発見します。現在では、『南方録』自体は実山が編纂・創作したものというのが定説となっていますが、この時期に『南方録』が発見されたという「逸話」そのものが、利休を顕彰しようという状況を背景にして生じた

今後も当館の展示を通して、堺と茶の湯の歴史をご紹介していきたいと思えます。どうぞご期待ください。
(さかい利晶の杜学芸員 根来孝明)

編集後記

さかい利晶の杜学芸だより第11号をお届けします。当館は令和7年3月20日に開館10周年を迎えました。今後も千利休と与謝野晶子をはじめ、堺の様々な魅力を発信してまいります。引き続きよろしくお願いいたします。
本号編集担当: 根来孝明(さかい利晶の杜学芸員)

さかい利晶の杜

Sakai Plaza of Rikyu and Akiko

- 千利休茶の湯館
- 茶の湯体験施設
- 与謝野晶子記念館
- 観光案内展示室

〒590-0958 大阪府堺市堺区宿院町西2丁1-1
TEL.072-260-4386 FAX.072-260-4725
https://www.sakai-rishonomori.com



- 開館時間**
千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館・観光案内展示室・企画展示室
9:00~18:00
※千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館 入館は17:30まで
※企画展示室 企画展開催中のみ開室
- 茶の湯体験施設**
10:00~17:00
- 休館日**
千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館・茶の湯体験施設・企画展示室
第3火曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始
観光案内展示室
年末年始

